

記録簿

人権政策課

市 長	副市長	政策監	部 長	次 長	主 幹	合	議
●	●	●	●	●	●	●	●
日 時	平成21年6月17日 (水) 午前10時55分～午前11時59分						
場 所	東近江市 ● ● 宅						
要 務	愛荘町役場への東近江市民による電話での同和地区差別問い合わせ事件 再聞き取り調査						
参加者	滋賀県、人権施策推進課 ● 参事 愛 荘 町、人権政策課 ● 課長 東近江市、人権政策課 里田主幹 (財) 滋賀県人権センター ● 主幹						
内 容	<p>○愛東支所（1F会議室）へ午前10時30分集合する。</p> <p>・主な調査確認事項又、共通理解は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 同和地区のイメージはどうもっておられたか、今はどうか。 2. 啓発冊子をもらって、勉強して今はどう思っているか。 3. びわ湖放送のスポット放送を見て問い合わせした理由。 <p>※ あくまでも、本人の体調を配慮しての聞き取りとする。</p> <p>※ 時間については、1時間を目安にする。</p> <p>※ 再聞き取りは今回をもって最後とする。</p> <p>以上の共通理解を基に聞き取りを実施しました。 協力いただきました ● 氏については、当日は体調も良く、基本とする 1から3の問いかけ以上にお話をいただきました。</p> <p style="text-align: center;">(内容は別紙のとおり)</p> <p>◎Q&A方式で (Qは行政からの問いかけ、Aは ● 氏) 尚、この聞き取り資料を基に、県・愛荘町・東近江市が 7月15日 (水) 午前9時30分から県庁において 事務担当レベルでの調査における検討会議が開催される為 里田が出席いたします。 他、人権センターの ● 氏出席予定。</p>						
上記のとおりでした。 平成21年7月13日							
所属 市民人権部 人権政策課 主幹 里 田 ●							

Q どうですか。お体の方は、手術されるとかされないと、お聞きしていたと思いますが。

A ずっと病院に通っています。

Q 週に3日位行かれていますか。

A その位です。

(ここで東近江市が作成している啓発冊子「ぬくもり」)を渡して読んでもらうようにお願いします。

Q さっそくですが、前に反省文を書いてもらったと思うんですが、書いていただいたですね。

わかりやすく書いていただいています。もう一度確認なんです。特に電話で問い合わせをされた時に、特に他意はなかったけど、やっぱり後から聞いたらあそこは同和地区かどうかと聞いたら間違いやったということは今でも思っていますね。そしてやっぱりそれは差別やと思っておられますね。

A はい

Q もう一点は電話で役場の職員さんがどなたですか。名前を聞かれたと思いますが、其の時自分の名前を言わずに、■■■■の■■■■といわれたとのことですが、やっぱりひとの名前を勝手に使って私も同和地区やと、こういったことは同和地区やったら教えてもらえると軽い気持ちで使ったかもわからないが、やっぱりその同和地区の人に対する差別につながる、ということは理解してもらえたと思いますが。

やっぱりいけないことですね。

A はい

Q 今日はそのをもう一度念のために確認したいとの思いからよせてもらいました。

前にも東近江市の人が言われたと思いますが、まだまだいろんな同和地区に対する差別が起きています。「どこが同和地区なのか教えてくれ」とか不動産屋が言ったり、興信所が調べたり訪問して、結婚とか就職とかで差別するという事件が多発してます。特に態はなかったと思いますが、また、それを調べて結婚問題や就職等に利用することはなかったと思いますが、
■■■■さんの話によると、むかし八日市の職安の前で記憶に残っていて確かめたかったと、でもたとえそうであったとしても同和地区であるかどうかと聞くことは差別ということも理解していただいていますね。

A はい

Q 前にも寄せてもらった時も悪かったと反省していただいておりますしね。

それとね、愛知川って隣でしょ。愛知川の■■■■

A しらん

Q ■■■■

A しらん

電話なんでかけたのかわからん。後で気がついた。

何を言うたのかぼうっとしている。今でもあるみたい。同和地区とかいうんじゃないし、知り合いの家へわけの判らない電話するんや。

Q 病気の関係ですか。

A と思うけど。夜中に電話するんですよ。

Q 昼間はそうでもないのですか。

A 昼間はそうでもないです。寝てる時にちょっと思い出したりして

Q 急にその、目がぴゅっと覚めたりするのですか。

A まあ、そういうことです。

Q 薬か何か飲んでおられるんですか。

A 飲んでいます。

Q 睡眠薬か何か？

A アリセプト（認知症の薬）です。

Q その副作用の影響かもわからないですね。

A それは無いと思います。

Q この近くやったら愛東やったら■■■■が。

A ■■■■は知っています。

■■■■って一番外れのところ、コカコーラのあの辺かな

Q もうちょっと彦根よりの所

それを知っているからね、私ら差別するというつもりはないけど。

■■■■さん幾つですか。

A 55歳

Q 55歳、私と一緒に、■■■■さん28年生まれで、29年の1月ですから
学年一緒。

私らの時はほとんど法律も何にもなかったから小学校、中学校、

あそこは怖いとことか、同和地区とかはいわなかったけど、

〇〇地区さん怖い所といったら全部同和地区とわかる。

そういう会話日常的にあったと思いますが。学校では同和教育なかった
でしょ。会社勤めたら、会社の先輩が、その道路で交通事故気をつけな
あかんよと、教えてくれた。そんな経験ぼくらしている。

最近では会社の方でも差別いけませんよ。行政でも啓発冊子つくっている。

そんなんは、ぼくらの年代やったら結構聞いたり教えてもらったりして
いて、ほとんど知っていて、むかしはあんまり良いふうには聞いてないの
とちがいますか。

確かにわたしらも友達はあるけど、友達とは仲良くするけど地区全体ではあまり良いふうには言わないですね。

A わしらも██████に友だちおるけど同和の話しますよ。面と向かって。

Q どんな話をするのですか。

A むかしはエタとか非人とか、そういうことでわしらも言うてきたなあとか。そういうこと育ってきたなあとか。電話も他い無かったと思う。

Q さっきのこと。私もそう思います。特質的では無かったと思うけど。・・・。

A 何でそんな電話したかと自分でもわからんけど。どう言っただいかな。とっさに電話したと思うけど。

Q 多分ね、私覚えているのは 16日ですね。

A ちょっともう忘れたけど。

Q お盆の時ですね、そして夜ですしね。

A ████████の3人も4人も知り合いおるけど面と向かって言ったりしてますよ。ほんで言うてくれた方がよいとゆうよう。向こうも。もんもん思っると向こうも劣等感わしらも持つとゆうよう。

Q だから、そういう形で、あの・・・。

A 向こうから言わはるもん。わし最初あいつに知りあった時あいつの兄がぱっと、ぶしつけにわしに言うよったでな。わしらエタやて。ほと、こっちも和むしな。逆にバツス、バツスと言われたらな。「██████さんわしらエタやでな」てほれはあんまり言うもんではないけどゆうたけどな。それはそれでわしら割り切っているでな。言いはったでな。

Q 差別があるから

A だから、そのう、兄さんやけど弟とつきおうて行く時にな。つきあっている過程でな。

そういうふうな、あらかじめこっちからいうとくでな、というもんや。

Q そういう形で友だちいるやんか。■■■■さんそういう付き合い出来るけど他の人は、■■■■さんそんな人とつき合ったらいかんと言われてたり・・・。

A ここでも聞く。耳打ちしてくる人がいる。ここでむかし同和の人がおったら

Q 聞くやろう。

言うてくるやろう。あの人はあそこやで、よいことはいわんやろ。

A 言わん。

Q だいたい同和地区の人は・・・。

A 逆に考えたら悪いわ、わしより。そういう人は。

Q そりゃ悪い。

A ここから引越しをしていった人のことをな。

怖いとこ行かはったとか、ぶしつけに言うてくるもん。

名前はいわんけど、ここにいはるもん。 いはる。

Q だからこういう啓発冊子とか作成して啓発をしているんですけどね。

問い合わせすることは、■■■■さんはたいは無かったですけど、それが広がったらみんなそうされますね。

A なんでこんな電話したんやろ。なんかふと思ったんやな。

Q そういうことは、やっぱり心の意識の中になんか引っかかるもんがあった？

A 引っかかるもんというか、あそこも同和地区かな。と思っただけやと思った。
知らんさかいに。

Q 知らなかった。こことここはだいたい・・・。■■■■とが

A ■■■■は知っていたけど。

Q ■■■■は知っておられた。

A 他はしらなんだわ。今おたくから聞いた■■■■とが■■■■？初めて聞いた。

Q さっき、言うておられましたね、コカコーラの向こう。たぶんそのう・・・。

A ■■■■はあの変やろう、と人からきいていましたでよ。

Q 人から聞いていたのでしょ。

たぶん記憶の中に今は忘れているかもしれませんが。

こちら辺の近辺ね。わたしらもそうですけど、近辺のところの

いつ言われたか覚えてないけど、会話の中でちょこちょこ出てきているから、記憶としてやっぱり残っているんですよ。

多分そうなんです。記憶にあったんと思うんです。

そうすると多分ですね、あそことあそこは聞きたいけど、聞いたこと覚え
ないなあと。だから気になったと思いますが。

A 同和のコマーシャルが入ったんです。びわ湖放送で入った。
最近はやってないけどね。

Q スポット放送、差別を無くそうというのですね。

多分わたし達もそれを聞いたから調べさしてもらいましたが、電話をされた
直前には放送されていないのです。

A いや流れている。

Q そのう、前後は流れている。だからその記憶に残っていると思う。

Q 週1ぐらいか、一日1回。

一人ひとりの人権を大切に滋賀県です。というのと
同和問題は私たち一人ひとりの問題です滋賀県です。

A あのう、あの姉妹が出てたな 何とかの姉妹が

Q 双子のですか

まな かな、ですか。 かなり前からびわ湖放送見ておられるんで。

A びわ湖放送、なんか、鑑定団の前かな。

Q なんでも鑑定団ですか。

A あの前後にあったはずやったかな。

Q それは何年間か流しているの記憶にあったと思いますが。

で、今みたいに夜になったらぴゅっと、なんか急にそうゆう昔のね、
記憶があって出てきたなあと思っているので。わたしらも。

A そのとおりですわ。ほんまに

Q だからわたしらも、■■■■さん何かそれを見て興信所に頼まれて
調べてやったとは、そんなんじゃないって思っているのね。

A いえいえ、ほんなこと全然ありません。

Q わたしら知ってもらいたいのは、例えそうであっても問い合わせをすると
いうことが良くないということは。

A 良くないことです。

Q なんでもう一回来たかという、それを■■■■さん良くないことや、差別やと言うているのに、東近江市は差別やないって言うているのです。

それで、それでおかしいのと違うのかということで、そして市長変わったでしょう、新しい市長になって、それでもう一回きかせてもらおうと寄せてもらったんです。

普通は■■■■さんが言うてくださったことを、そのまま東近江市がきちんと見解まとめてくれていたらもう一回来ることも、来てももう一回同じようなことをその話を聞きだすということも無かったのです。

A なんのたいも無かったですわ。なんでそのことを聞いたのかな。

聞いて良いと思った。電話した時の印象は、こうやって同和教育のことがこんだけ進んできているので聞いても良いと思った。

Q 教えてくれると思った？

A 教えてくれると思いました。

あのう、これを聞いたからといってどうのこうのとといったことも全然考えてもいなかったし、普通の真っ白い気持ちで聞きました。ほんで会話中であっと思たんです。向こうの対応の仕方が。

Q 「それはだめなんですよ」と

A きつい言い方をしてきたから。これはやっぱりこれだけ進んでいると思っていたが、やっぱり聞いたらあかんのやと思いました。

Q 差別を無くしていこうと、でどうしても地域の実態がどうなっているか調べたりする。こういう時は知らなかったら出来ませんからね。

A 差別してないし、差別のそのう、何年か前に大阪に行っとくのですわ。合併してから、リバティ大阪

Q どうお思はりましたか。

A 展示室あって、室町時代から続いていると・・・歴史が。

向こうから聞かれる前に質問したり、何でもこういうことがおきているのかと別にわしらは何とも思ってないし、知り合いにもそういう人もおるし、今後どういうふうな形で進めていかはるのかと、あらゆる角度から聞いた。

また、太鼓があって皮がどうのこうのといったことを聞いて、ほんなことかいなあと思った。

Q あれもあったでしょ。部落地名創刊あったでしょ。あれは全国の部落の地名が書いてあるもんです。それが売られた。それを買うとやっぱり書いてあるんです。例えば愛東やったら〇〇は、やと。

愛知川やったら〇〇とか〇〇というふうに書いたものが売られていたのです。

それを住民票とか戸籍とつき合わせてすると、あつこの人本籍書いてあつてこの人同和地区の人やなあ。

そういうことをして内の会社は■■■さんは成績良いけど同和地区だからと・・・。そういう歴史あった。と展示してあったとけれど。

だから、問い合わせをしたりしても、役場はそれは答えられませんと。

A だから、研修に行ったのはこの私が不始末侵す前やったかな、あとやったかな。

Q 東近江市が聞き取りしたけど、手術せんならんと言っておられましたね。前と違いますか。

愛東と湖東は17年の2月11日合併されたと思うんですが。

A その前やな、愛東町の時やな。

Q 最初に東近江市が聞き取りした時は体調もあまり良くないって聞いていましたので。

A そうすると愛東町の時代やな。

Q その時代はあまり病気出て無かったのですか。

A いや、あったみたいでは
田んぼの中を自転車で走っていたりしてたんやわ。
ほれを人に言われたりしたり。
たまたま田んぼに水がなかったさかい、秋口やから、稲なかった時やから
ほんで、ちょっとおかしいのところがうかと。

Q 検査かなんかされた。

A 神経がちょっと。
圧迫して・・・。

Q もう今は手術して

A 今はだいぶんまっしです。

Q そうですか、前の時はそうゆう研修に参加してくれて、結構勉強もして
いただいていたのですね。

A してました。
知り合いがおるので、どういっていいのかな。
こういう問題でもとらえ方によって、ぐーと胸に持つ人とわしらみたいに
ざっくばらんの人と二通り思うんです。

Q そりゃさまざま、別になんとも思わんとつきあってくれる人もおられるし、
やっぱ、同和地区やとわかったとたんに手のひらを交える人もおられるしね。

A そりゃ千差万別
ここでも■■■■が同和地区ですわな。湖東の平和堂がありますやんか。
あそこに行くのに、わざわざ上岸本を通過して平和堂へ行かはるもん。

Q ■■■■通ると近いのに。

A わし、ほれもおかしい人と思うわ。

Q 近いのに、普通考えたら近いとこいきますよね。

Q そこは、やっぱり同和地区だから車で行って事故でも起こしたら、たいへんなことやとおもっているのね。

そういう意識をもっておられる人がたくさんおられるわけです。

だから問い合わせをしておられるということは、■■■■さんそういったことが無かったとしても、だめよということなんです。

それは■■■■さん理解してもらっていますね。

A はい

Q 生活している中で、まだ、まだ役場、啓発やっていますがまだまだ日常生活の中で部落に対する同和問題に対する偏見があるのです。

A 固定観念あるもん。そのまま根強く残っているもん。

Q それはわかっておられますね。

A 国が取り組んでおられますが、人によってはずっと親から子へ暗黙の内に伝えられていていつまでも経ってもオープンにならんような気がしますなあ。

Q だから私らも別にそんなことを思う人がいなくなったらね。

あそこは、むかし同和地区やったでといってもかまわんと思うよ。でも今もいったようにわざわざ近道通って平和堂いけるのにわざわざ遠まわりしていくのは何でかという、あそこでもし交通事故にでもあったら何百万取られるで、といって遠まわりする。そんなことをまだ言われる、こういう社会があるから。

A 絡まれたりしたらかなんと。

Q なんか因縁ふっかけられたらかなんとかね。けっして同和地区をあそこはすばらしいとこやとかね。ゆうてくれはる人は少ないでしょう。

A 車をのって居た時、その人の後ろをついて行ったら迂回をしはる。

Q ほんとう。

A やっぱりその人迂回しはりました。

Q やっぱり、そうゆう人■■■■さんの周りでもまだまだ今でもおられるんですね。

A いますよ。

Q それを無くしていかなければならないが・・・。

A このままの流れではちょっと無理やろなとわし思うわ。

Q どうしたら良いと思いますか。

A わしも同和地区というのは大人から聞いたんですよ。

Q 小さいときにでしょ。

A 子どものときにな。

小学校の3年か4年の時にや、田んぼのあぜ道を帰って来たときに大人同士が、当時60才位のおじさんやったわ、あっ怖い怖いあれもあれやてな。

そして家に帰って「おとうちゃん、これってなんや」といったら同和のことやて。ほんで大人が悪いのやな。

Q 大人が悪いし又それを聞いた人が子どもにつたえるでしょ。

そんなん何言うてんのや、おじさんら古い考えと。

そこで止まったら良いが、また伝えるからね、子どもの頭に残る

また、そのようなことが繰り返し、繰り返し。

行政も税金をつかって啓発もしてるんです。

A 会社でも知らん人に教える。

この同和地区というのは日本でもだいたい北の方は少ないのやね。

だいたい南のほうが多いのやね。

例えば北海道とか来ている人は、全然しらん人が多いのですよ。

どこで知るかというのと、こんなことをおたくらに言うのと申し訳ないが、研修で知るんですよ。会社でやる研修で知るんです。

そうすると、今まで全然知らなかった人が目覚めると言うかそういうことがあるんですわ。

Q 研修で暗いイメージ、マイナスの部分があるんですか。

A 何人もそういう人知ってますわ。

昔、守山の■■■■におったんです。其の時でも北海道から、いろんなところから来ている人が働きに寮に入っていて研修があると、同和の同の字も知らん人が結局知ってしまう。

Q そういうのあるかも知れませんが、研修ないけど人から人に何もかも教えますね。ところが友だちなんかは毎日会ってるしね。それでこと有るごとにこの辺は〇〇と教えますね。

A 教えよる。

Q だから記憶で残っちゃう。だから、こういう啓発をね。

私らも研修行ったりするけど、毎年1回の研修より身近に何人かが雑談で喋って入る方が、普通は私ら言っているのは、研修が終わって靴はく下駄箱でいろいろと喋っているほうが記憶に残っている。今日の講師はわからん話ばかり聞いたと。

そう言うことも含めて、まだまだ根強い差別意識があるんで、そういう意味で■■■■さんも体と相談しながら、又東近江市でリパティとか行く研修等あれば案内させてもらいたいと思いますが、体調悪かったらだめですが、良かったら参加してくださいね。

だから、まだまだ■■■■さんの周りでもある。できたら又今度は言うたらあかんでと言ってほしい。

A ■■■■。■■■■でも偏見持つ人がいるもんね。

「■■■■」■■■■って読むんです。

Q 「■■■■」■■■■って読むんや。

A もともとたどって行くと朝鮮から、渡来人なんや、[REDACTED]は

Q 「[REDACTED] [REDACTED]」と読んでるけど「[REDACTED]」とも読むんですね

A 私も出身、[REDACTED]ですわ。

Q そうなんですか。

A 私、ぶしつけに言われましたわ。[REDACTED]といたら朝鮮やろって。
そりゃ朝鮮の血が流れているよって。
だから偏見もちよる。

Q 鑄物やっているところあるでしょ。
いろんな地名に向こうから来た名前が残っているでしょ。

A 残っている。

Q 愛東とか、どこか有名な鑄物屋さんがあるでしょ。
日本でも有名な鑄物とか鐘とか造っている。

A しらんな・・・。

Q 結構、滋賀県は韓国、朝鮮から来た人の神社とかお寺とかが残っていますね。
渡来人が文化を持ってきてくれた人たちですね。

A [REDACTED]をたどって行くと、渡来人の人といっしょになっている人も結構おられるんです。そんなの言い出したらきりがありませんよ。

Q そうゆうことも含めてね、部落差別だけでなく、いろんな朝鮮の人達も差別があったんですよ。日本民族は朝鮮民族より優位だと思っている人がいる、だから[REDACTED]書いて読み方違う[REDACTED]とか朝鮮の血がとか思うわけですよ。

A 私、ぶしつけに言われました。むかし若い時に、会社の時に。
「██████」██████。 滋賀県愛知郡愛東町██████やったが、それを見た人が
滋賀県愛知郡愛東町██████（██████）！
お前、██████言うたら朝鮮のあれと違うのかって言われた。
まあ、そういうことやと言ったら「渡来人」や、と言われました。
結局なんか心の中にもっているんですね。

Q そういう形で朝鮮に対する差別もあるからね。
むかしは、朝鮮も部落もいっしょかかえていて。そういう体験も██████さん
してはるからね。だから差別したらあかんと思いますわな。

A そうです。

Q 周りから見たらまだまだそういう意識が残っているでしょ。

A 残っています。ほんとうに残っています。

Q 20年前になんか職安の中で、どうしようのないことを言うてはった。
そうゆう状態があったというはあるんですね。それからずっと研修を続けて
いても、どうしても同和地区がマイナスのイメージ持っているとおっしゃった
んですけど、マイナスやというイメージがですね学習されている中でですね
どう変わってきましたか。

A 変わって来たというか、どういっていいかな。視野が広がったかというか
子どもころの考え方と又変わってきましたですね。
とらえ方が大きくなって来たというか、確かにそういうことがあったけれど
これもやっぱり時代というもので、いつまでもこだわっていたら、あかんとい
う気持ちにはだんだんと視野が広がって来たのは事実ですわ。

Q まだ同和研修の話を知るとまだそうゆう理解や偏見が残ってるし、これから
どうゆうふうにしたら同和地区を偏見もって見られんようになるかなと行政
としてもいろいろと聞きたいんですけど。
やっぱり同和地区と聞くと暗い・・・

A 同和地区と聞くと昔は一步ひきましたやんか。誰でも。

そうゆうのなくしていこうと思うとどうしていいのかな。難しいですやんか。一口で言えません。

■■■■さんに質問した時に「■■■■さん自分の子供が同和地区の子と結婚したい」と言ったらあんたどうする、と聞いたら、ちょっと絶句しはって、そりゃ当然ですわなあ、同和地区へ嫁がす気はあるけども、心配はすると言われた。そりゃ当然やわな。

Q 意識調査しても出来れば係わりたくない、一度考え直すようにとの意見が多かったです。

A 最近同和地区の方からも嫁いで来られた人もいはるし、その逆もありますね。

Q 一方ではさっき言うた人もおられるでしょ。

A そりゃいはります。

Q いっぺんにはなくなりませんか。

A なくなりません。
時間がかかりますわな。

Q ■■■■さん■■■■、■■■■から会社に通勤されていたのですか。

A 寮に入っていました
だからいろんな人知ってます。知っているというともつかしいですが、北は北海道から南は九州、いろんな人が集まってきていました。600人いました。浜街道の守山の■■■■です。

Q いつごろまでおられたのですか。

A 30才までです。昭和49年入社ですわ。昭和57年退社です。

Q 関東の方もあるからね。

A それからこの株式会社 [REDACTED] に勤めました。

20年おりました。そしてここでリストラにあいました。いっぺんに20人位ずぼっといけました。茨城工場へ行ってくれとか。当時は両親いましたし、そんな遠くへはいけません。だいたいそうゆう者から辞めてくれですわ。

Q いろんな人とかかわって来られたのですね。部落に対するマイナスイメージもきかあったんですね。

A 「 [REDACTED] 」と言われたとき ほうっと思いました。

Q やっぱり言われると良い気にはなりませんでしょ。

A 良い気にもならないが、根強いものがのこっているなと思う。

Q 部落問題に置き換えると腹立つでしょ。

A 腹立ちます。同じことです。

それを、クダラ寺と読まれてしまう、とらえ方がちがう。

Q やっぱりええ目では見てくれないでしょ。だから部落問題でもそういう偏見もってなかったら、今はもういろんな町づくりやっているから、ええとこやと言ってくれるけど、偏見もってたら、いくら良い村づくりやっても、ここは同和地区、怖いところになってしまう。

ちょっと違うけど、やっぱりそう見られたら人間侵害やね腹たつし、だからそうゆう気持ちを大切にしてもらえれば、だからそういう問い合わせをしたりするとゆうことは、 [REDACTED] さんが差別意識が無いとしても、差別につながる行為と思いますが。

A はいそうです。

Q 行政としても、「それは答えられません」と言うのが正しい行為。

出来るだけ人権の方もきて情報交換しながらまたいろいろこれからもおしえてもらったりしてね。

私らは何も [REDACTED] さんに説教に来たのではないので。

[REDACTED] さん [REDACTED] に勤めておられて、こっちに帰られ、生活をして。

行政より一番良くしているのは、地域で生活して会社で働いている人
研修会の後に、みなさん何か質問ありませんか。といたらみんな良いこと
言はりますね。差別はあきませんか。で講師が帰ったら、ちょちょ喋
って居る時、あんまり良いこと言わんでしょ。だからそういう実態を教えて
もらうことがこれからの啓発に活かす、今日聞かしてもらって今、役場や
市役所が一生懸命啓発してるけどいまだにそういう人がいることがわかりま
した。

A だいたい、ここ愛東町の時でも役場が来て研修を何十回とやっていた
研修の時、そういう話をするとうつぐんでしまうんです。当時担当の
という人が来て同和教育の研修がはじめるとみなさんご意見をとようと
今までベラベラと喋っていた人が、喋らん。そういうふうでは進行しません
わな。

Q 研修会もいいイメージではないし、同和問題もいいイメージでないと
なってしまうんですかね。

A それはね、自分の意見を言わないで裏でござそそということはだめ、
そこでは言いにくいかも知れないけれど。

Q 愛荘町の職員さんが電話でそのことは問題ですよと結構強い口調でいわれ
ましたが

A 言われました。言われました。

Q その時にこれは聞いたらいけないことや、との思いはあったんですか。

A もちろんありました。電話する時はオープンやさかい良いと思っていました。
口調が変わってきたから、これまだ聞いたらあかんことやと悟りました。

Q その後の自分の名前をいうのに、人の名前を。

A 人の名前を言ったのは事実です。

Q それは、とっさに自分をかばうというか。

A そういうことです。

Q 自分をだれかわからんようにしようと、ふっとよその人の名を。

A これはえらいことを聞いたなと思って、何十年前のことを思って

Q そちらの電話からかけられたのですか。

A はい

Q 最近電話をかけてこられた相手の番号がわかるということをご存知なかったのですか。

A 知らなかったですわ。

Q いろんなことを考えると公衆電話でしたら誰がかけたかわからないでしょ。それなのに家からかけられたのですね。

A そんなことを考えずにかけました。

Q 聞きたいとの思いだけで、むらむらと来てかけられたのですね。

A はいそうです。

わたしがたいがあったら公衆電話からかけますわ

Q だれでもそうしますね

Q そうゆう悪い気持ちは無かったと思いますが、とっさに言われると差別が残っている、同和地区というのは、良いところは違うマイナスイメージがあって差別されているとこやとわかっていただいていると思いますが。

A はい

Q ■■■さん同和問題をはじめ、さまざまな人権問題についても、交通安全みたく、365日、毎日が人権課題です。今までは国の確かに問題として施策としては、家を建てたり、道路作ったりの生活環境整備をやってこられた。自分自分、一人ひとりの問題としてこれからはやっていくことが大事。

今日、いろんな話を聞かしてもらって■■■(■■■)■■■とか滋賀県人を滋賀県人、近江商人、えげつないとか言われたら良い気しませんもんね。それで、愛東の気持ちを思ったらこういうことしたらいけないと、いろんなことがたくさんありますが、それを見つめなおす情報とか講演会やら研修会やっていますので、又情報流さしてもらいますし。

■■■さん、移動手段は自転車ですか。

A はいそうです。

Q 研修会、雨降りで行けなかったら迎えにも寄せてももらいますので
こうゆう研修や講演会には是非参加したいと希望あれば行ってくださいね。

また、人権について協力とご支援お願いします。

Q 愛知川の■■■は職安でだれが言っておられたのですか。

A はいそうです。何十年まえですけどね

Q それが気になったのですね。

そうすると内の職員がそれは問題ですよ。住所・名前言うて下さいと言った時に普通やったら電話切ると思いますが、とっさに名前をいったのはどこらへんのことがあったのでしょうか。

A 急にそのことを思い出したので。

Q 其の時、切ろうかなとも思われましたか。

A はい思いましたね思いましたけど、とっさに口に出ました。

Q 切ろうかなと思った反面、そうゆうふうに通じたのですか。

Q ■■■■勤めていたんですよね。そこは自分で辞めたの。

A 自分で辞めました。

Q こっち、地元に戻りたかったの
其の時職安行ったの

A ■■■■やめて其の時八日市職安行きました。
当時は郵便局のところにありました。そのところでの会話を聞きました。

Q じいーと聞いていたわけではないでしょ。

A じいーとしてたら耳に入ってきました。

Q だから断片的に地名とか入ってきたのやね。それが残っていたんですよね。
■■■■が同和地区とか確認したこともないのですね。

A ないです、ないです。
わし、■■■■の■■■■とかなんとか喋ってはりました。
お前あれか。愛知川の■■■■おまえ怖いとか話してました。
その印象がありましたわ

Q それも断片的でしょ。

A 断片的です。聞こうと思って聞いてないです。

Q あんまりくわしい中味は覚えてないでしょ。

A 覚えてないです。

Q 部落問題、同和問題にかかわってた、かかわってないの話でしょ。

A そうです。

Q その中で出てきた地名を断片的に覚えていたということでしょ。

A そうです。

Q 多分それは良いイメージで無かったということでしょ

A はい

Q 悪いイメージやったということでしょ。

A 人が聞いたらちょっといやになる話でした。

Q 具体的には覚えていませんか。

A いや今話をしたように、わし[]やけど、お前さっきのあいつ愛知川の[]
とかなんとかいうてね。そしたら、同和と違うのかとか何とかいうて、耳に
残っていますは。

Q そんなに、中味はわからないけど同和問題にかかわることやから、まあ良い
ことでないということでしょ。

A 人を指差しておった。3人程いてもう一人の人が中に入ったとき、この人を
指さしおったですよ。

Q あの人は同和地区の人と違うかというような話をしてたんですね。

A そうです。

Q そうすると言ってた人も同和地区の人かどうかもわからんということや。

A いやいや、自分は[]とか何とか言うていましたし。

Q []は同和地区とちがいますよ。

A そうですか。知らんけど、■■■■とか同和地区かなと思ったです。

Q 実際言うたのは同和地区出身の人かどうかもわからないのと違いますか

A わかりません

Q わからないでしょ

そこで同和問題の話してたから、あいつも同和地区出身の人と話してたから■■■■の■■■■さんが同和地区かもわからんでしょう。

A わからん

Q 今、喋ってた中味が同和地区の話しやからろくな話はしていないと思ったの
でしょ。

A 何人もその話を聞いていた人もいたけど、途中でさっていったな。
やらしい話ですし。

Q 多分地名出して、名前出してこういう苗字は同和地区に多いとか何とか喋っ
ていたのと違いますか。

A 多分そうだと思います。

Q だからその人達が同和地区の人とかはわからないですね。

A わかりません。

Q それで、問い合わせされた時は聞いたら、言うたら教えてくれるのかと言っ
たでしょ。

A そうです。

Q やっぱりそういう行為が間違いですね。人の名前勝手に使って、同和地区や
と言って同和地区やったら、おしえんかーというのはね。
やっぱり、それはその人に対する差別と思うんです。また同和地区に対してもね。

それは理解してもらいたいのです。
自分がたとえ地区であったとしても、やった行為は問題やけど同和地区でもないのに同和地区の人の名前を勝手に使って、こういうことをせえーとそれだけはね。ちょっと。結構あるんですよ。

こういう話聞かれたことありませんか。
喧嘩になったりした時、自分は同和地区でもないのに、わしはどこ何処の何々。

A ありましたですな、むかしは。

Q 又、交通事故の時にもね。

たまたま言うた相手がわしは[] 親戚の名前言え。てなったら嘘ばれるそんな事件が結構あるんです。高校生でも。威嚇するためにあるんでしょ。それは同和地区は怖いというイメージがあるということで相手がひるんだりするんでしょ。

A 若いとき何回かこうゆうことありました。

荒神山へ、5～6人バイクで行ったんですが、囲まれて、わしら同和のものやて。

Q 実際は同和地区の人かわからんですわね。

A それはわかりません。

Q そんなんは結構同和地区を騙るいうか、使って相手を脅して、こちらの要求を通すという、いろんな所で起きているからね。そういう形で、[]さん、電話した時、「わしも同和地区や」と言ったことはそういう意味から言うとなんやっばり差別になるんです。

A はい

Q それは反省していただけてますし、よく理解してもらっておられると思います。

おっ昼になりましたので、これで終わりにさせていただきます。
本日はどうもありがとうございました。